

2017年12月クルディスタン報告書

日本クルド友好協会



南クルディスタン(イラク北部クルディスタン地域)



2日、[クルディスタン地域政府\(SHK¹\)首相ネチルワン・バルザニは、イラク中央政府との紛争解決について、フランス大統領エマニュエル・マクロンと会談した。](#)



写真:AFP

マクロンは紛争解決にあたりフランス政府が仲介する条件を述べた。

¹クルディスタン地域政府のクルド語、Serokayetiya(政府) Herêma(地域) Kurdistanê の略。外国メディアでは英語の略称 KRG(Kurdistan Regional Government)が使われる。

・イラク憲法の尊重

・中央政府はクルディスタン地域内含む全ての国境を完全に管理しなければならない

・中央政府は人民動員軍を含め全ての民兵組織を解散させなければならない

・イラクの歳入は全て平等に分配されなければならない

・係争地について規定する憲法140条は適用されねばならない

記者会見において、マクロンはイラク大統領アバディが民兵は武装蜂起し「帰郷」する必要があることを「認めた」ことについて述べた。

クルディスタン地域に石油利権を有する欧米諸国は、安定的な石油確保のためクルディスタン地域にイラクの枠内での自治という従来のある方に戻るよう勧告する。12日、[イギリス首相手リーザ・メイは、クルディスタン地域政府首相ネチルワン・バルザニをロンドンに招待した](#)。イラク中央政府との問題について協議するためであるとする一方、クルディスタン地域がイラクの一部であることを強調した。13日、[アメリカ国務長官レックス・ティラーソンは、イラク憲法遵守を求めるクルド人の姿勢を支持すると発言した](#)。



ティラーソンはイラク憲法の遵守がイラクの統一に不可欠ながら、これまで蔑ろにされてきたことに触れた。9月25日に実施されたクルディスタン地域の独立を問う住民投票については、イラクの統一を損ねたと評価した。各国ともイラク側の軍事行動についてはクルディスタン地域に同情的である。15日、[イタリアとチェコの大使はそれぞれネチルワン首相と別々に会談を行い、クルディスタン地域への支持を表明した](#)。チェコ大使はクルディスタン地域との関係強化とキルクーク危機による避難民への同情を表明した。

[クルディスタン地域に送られるはずの1千万カナダドル相当の軍事支援物資が、未だケベック他の倉庫に死蔵されている](#)。これはイラク中央政府が、クルディスタン地域への輸送を妨害しているからである。ダーイシュの脅威がほぼ消滅した今、欧米にとつ

てクルディスタン地域の価値はイランの勢力拡大の防波堤ないしは防衛の基地となることである。とはいえ、欧米がイランの勢力を抑えるためにクルディスタン地域を支援しようとしても、イラク政府が妨害する限りそれが実現されないのである。

・ロシア、イラク中央政府へ揺さぶり

欧米各国が。8日、[イラク石油相はロシアとの間にクルディスタン地域で採掘事業について何ら許可を与えたことはないと発表した](#)。7日、ロシア資源相アレクサンドル・ノヴァクは、イラク首相アバディとの会談後自身のツイッター上に、「イラク中央政府はクルディスタン地域における我々の事業に何ら不満を表明しなかった」に投稿した。ノヴァク氏の発言を受けてイラク中央政府は、会談においてそのような議題について話合われなかったと発表した。14日、[ロシア大統領プーチンはクルディスタン地域におけるロスネフチ操業はイラク全体の利益となると発言](#)した。プーチンは、定例記者会見において「我々がクルディスタン地域と関係を深めるべきでない理由はどこにもない」とし、クルディスタン地域に関係する政治的問題を理解しながらもロシア企業の事業を後押しし経済関係をより深めていく方針を述べた。クルド人の多くはマハーバード共和国の経験²からロシアを完全に信用してはおらず、本当に同盟を組むべき相手とは捉えていない。シリアのクルディスタンを実質的に統治するPYDが最初の外交拠点をロシアに設置したように、アメリカを揺さぶる手段としている。

・イランの狙いが露見

10日、[イラク中央政府石油相ジャバル・ル＝ルアイビはイラン政府との間にキルクークの原油交換協定を結んだ](#)ことを明らかにした。キルクークから採掘された60000バレルの原油をイランへ輸送し、代わりに「同質・同量」のイラン産原油がイラク産石油として輸出される仕組みだ。さらに両国は、現在のトルコ領内を通り地中海へと至る古いパイプラインに代わる、新たなパイプライン敷設計画を明らかにした。計画ではバイジから、イラク・シリア・トルコ三国の国境に近い[フィーシュハーブール](#)に至るパイプラインが建設される。これでキルクークの石油をイランが自由に扱う態勢が整ったといえる。イラク側がキルクークに侵攻した時、日本含む世界のメディアは「イラク軍」と報じた。実際にはモスル作戦等に投入された正規軍ではなく、いわゆる民兵連合「人民動員軍」がキルクーク侵攻を主導した。人民動員軍とは、それぞれ異なった背景を持つ指揮官、指導者に率いられた私兵集団にイラク中央政府がお墨付きを与えたも

2 第二次世界大戦終結直後の1946年、イランのクルディスタンの街マハーバードでクルド人が共和国設立を宣言した。ソ連は当初共和国を支持していたが、情勢が不利と見るやイラン政府と協議の後支援を打ち切り、直後に政府首班は処刑され共和国は取り潰された。

のだ。資金、武器供給をイランに頼り、実質的にイランの指導下にある組織が多い。「ヒズボラ大隊」(軍旗:下左上画像)、「ヒズボラ・ヌジャバ運動」(軍旗:下右上画像)、といった組織は、名前、またシンボルがイランのイスラム革命防衛隊やレバノンのヒズボラの影響を想起させる。



イランのイスラム革命防衛隊



レバノンのヒズボラ



ヒズボラ・ヌジャバ運動



ヒズボラ大隊

国連イラク支部は、[人民動員軍が10月のキルクーク近郊トゥズ・フルマトウ占領において、多数の人権侵害を行った](#)ことを報告した。同地から非難した住民の話によると、クルド人、テュルクメン人の家屋150棟が同組織民兵によって火を放たれた。クルド人をこのような残虐行為から保護することは、イランの傀儡勢力を封じ込めるためアメリカの軍事介入、武器支援を正当かする材料にはなりうる。民兵組織の指導者が要職につく現在のイラク中央政府の猛烈な抗議が予想されることから、イランの手足を縛ることは容易ではない。5日、バグダッドに駐在するアメリカ大使ダグラス・シリマンは、[クルディスタン地域における軍事力を維持する方針をイラク側へ伝えた](#)。キルクーク西方のK1空軍基地に増援部隊が到着したとの噂が流れた後、初めて現地の

アメリカ軍部隊について言及する形になった。イラク、クルド側双方のメディアが同基地へ大部隊の到着を報じたが、イラク統合参謀本部は否定している。さらに、シリマンはイラク側のキルクーク侵攻以前に既に部隊の配置がなされていたと説明した。封じることが容易ではない。10月のイランが仕掛けた軍事行動において、アメリカは介入する間もなくキルクークが制圧されるのをなすすべもなく傍観していた。イランの好き勝手にさせないという姿勢を示した。

・SHKの課題を浮き彫りにした民衆の声

19日、公務員の給料遅配等がきっかけとなった反政府抗議運動によって少なくとも6人が死亡し、70人が負傷したことが報じられた。SHK首相ネチルワンは、今回の抗議運動について「理解できる」と発言しながら、財政の安定化に向けた具体的な道筋を示すことはなかった。アバディは同日、クルディスタン地域の公務員、兵士への給料となる財源の拠出を拒否した。



定例の記者会見で発表をするアバディ（写真：kurdistan24）

兵糧攻めによってクルディスタン地域を恭順させイラク国家の枠内に留まらせようとしている。クルディスタン地域が完全に団結していれば逆に独立への契機にできたが、地域的分断と未熟な財政運営といった国家運営の不備に満ちた現状では、有効な強請りの手段になる。キルクークの石油がトルコへ続くパイプラインを通りジェイハン港から各地へ輸出されることが財源の安定化につながる。イランはイラク政府が動くのを待つことなく、革命防衛隊を通じ人民動員軍を使いキルクークを奪取せしめたのであった。後は直接手を下すことなく大衆の反感が地域政府につきつけられるを待てばいい。住民はPDK、YNKに対し、ダーイシュとの戦争、独立を問う投票によって一時的に棚上げにされていた問題に向き合わなくてはならないことをつきつけた。

ロジャバ(西クルディスタン、北シリア)



9日、アメリカはシリアのクルド人勢力に対し新たな**武器支援**を行ったことが報じられた。シリア反体制派メディアは、イラクとの国境に近いデリックにアメリカ軍が兵器を輸送したことを報じた。アメリカはダーイシュ壊滅後も引き続き、北シリアに部隊を駐留させクルド人勢力を支援することを表明している。表向きはダーイシュの再来を防ぐため有力な現地勢力を支援するということだが、実際はイランに対しシリアにおけるアメリカのプレゼンスを維持することを示す狙いがある。イランはレバノンのヒズボラのみならず、イラクから人民動員軍をシリア領内へ入れ反体制派との戦闘に従事させている。シリアのクルド人勢力はイランが支援するアサド政権と敵対関係にあるわけではないが、少なくともイランの気ままな行動を北シリアで許すことはなく、アメリカの活動拠点を提供してくれる。加えてこの地に眠る天然資源並びに、不安定なトルコに代わる将来のパイプライン敷設予定地もあるクルド人勢力は、ラッカ攻略後に発動した「ジャジーラの嵐」作戦によって、ダーイシュが占領していたデリゾール県の主要油田、ガス田を制圧した。主要アラブ諸国の中では比較的地下資源に乏しいシリアにおいて、アサド政権から地下資源をほぼ取り上げたことに等しい。シリア反体制派支援に失敗した今、クルド人を失うことはシリア介入の完全失敗を意味することになるのである。

アメリカはトルコが NATO に加盟する重要な同盟国であるというスタンスは崩していないため、積極的にクルド人への攻撃を止めようとはしない。そのため、時折トルコへのリップサービスを行い、それをトルコや欧米メディアがアメリカはクルドを見捨てると騒ぎ立てきた。アメリカ軍はトルコ内インジルリク基地が、反米群衆に包囲され一時停電が発生したことなど踏まえ、基地に配備していた核を国外移送したことは記憶に新しい。長期的視点で見ると、冷戦時代に重要であったトルコの戦略的価値はもはやアメリカにとって不可欠なものではなくなっている。むしろ欧米諸国が自国の重大な脅威と

みなすイスラム過激派掃討に積極的でなく、ダーイシュを支援したとの疑惑があるトルコは地政学的リスクにすらなっている。

10日、シリア東部デリゾールにおいてダーイシュ掃討作戦を続けていたシリア民主軍は、[イラクとの国境地帯においてイラク軍と共同で作戦を実施](#)した。さらに両軍の高官は国境地帯の安定に向け協力することなどを話し合った。



会見する HSD とイラク軍の将校 (写真: ユーフラテスニュース)

両軍の協力体制確立は、安全保障面よりも経済面で大きな意味がある。イラクのクルディスタン地域政府を主導する PDK は、クルド人同士でありながらトルコ寄りでシリアのクルド人勢力とは仲が悪いとされる。そして国境地帯は PDK によって管理されており、バルザニの意向一つで容易に封鎖される。イラク中央政府がジェイハン・パイプラインに代わりシリアとの国境付近に至るパイプライン敷設を計画していることに触れたが、今回の共同作戦はその先鞭をつけるものとして理解されうる。

文責: 並木宜史 (日本クルド友好協会研究員)